



こんにちは、原子力機構です。

～「ふげん」原子炉本体解体撤去に向けて～

2022年12月作成

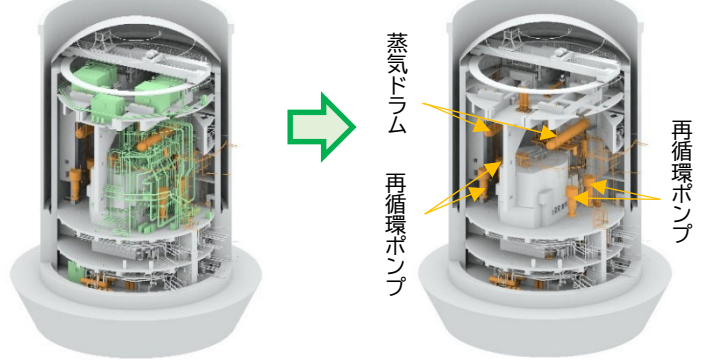
2003年3月に約25年間の運転を終了し、2008年2月から廃止措置を進めています(2040年度完了)。2018年度から2029年度までを「原子炉周辺設備解体撤去期間」として、タービン設備や原子炉周辺設備等の解体撤去を行っています。

原子炉周辺設備の解体撤去

- 2020年度～2022年度
原子炉周辺設備の解体撤去として、Aループ側設備等の解体撤去に引き続き、Bループ側設備等の解体撤去完了
- 今後
大型機器(蒸気ドラム、再循環ポンプ等)について解体撤去開始

Bループ解体撤去開始時

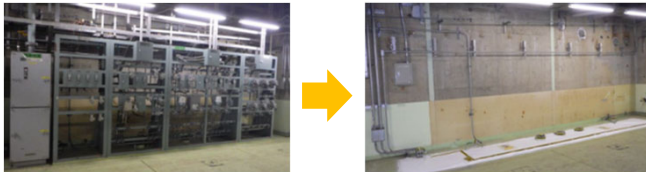
Bループ解体撤去終了時



■ Bループ側解体撤去範囲 ■ 大型機器(解体撤去作業予定)

タービン設備の解体撤去

- ・復水系・気体廃棄系等の計装ラックを解体撤去完了



復水系・ヒータドレン系・主蒸気系計装ラック(解体前→解体後)

使用済燃料

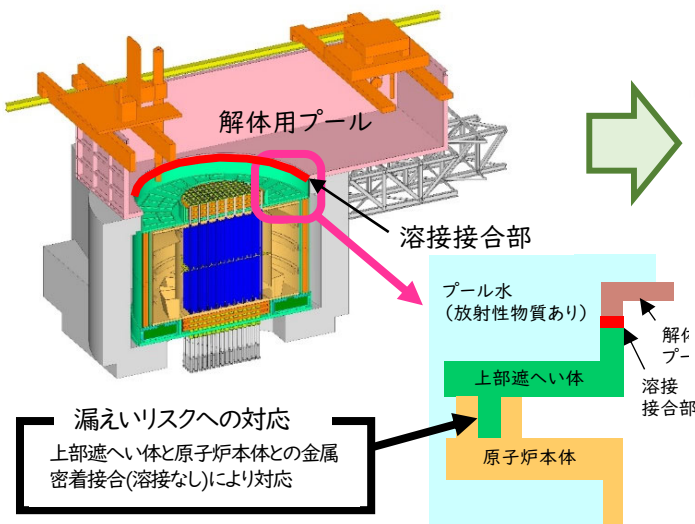
- ・2026年夏頃までの使用済燃料搬出完了に向けて、仏国オラノ・リサイクル社との間で使用済燃料の輸送や再処理の実施に関する契約を2022年6月24日に締結
- ・輸送キャスクの製造等、搬出に向けた準備作業を実施中

原子炉本体解体撤去に係る解体工法の変更

原子炉本体の解体にあたっては、解体用プールを設置して作業を進める計画ですが、さらなる安全性を高めた解体工法に変更し、新たに遠隔で溶接・検査を行う装置(マニピュレータ)の技術開発及び検証・評価を実施するため、廃止措置工程を7年間延伸することとし、2022年11月25日に原子力規制委員会に廃止措置計画変更に係る届出を行いました。

[現行計画]

解体用プールの底板を、原子炉上部にある遮へい体に溶接する工法



[見直した計画]

遮へい体を撤去し、解体用プールの底板を、原子炉本体に直接溶接する工法

